

第5回大野市都市マスタープラン改訂委員会の会議結果の概要

日時 令和4年6月6日（月）

午前10時30分～

場所 結とびあ 201・201号室

1 開会

2 協議事項

- ・大野市都市マスタープラン（素案）について

【委員のみなさんの主な意見】

- 改訂委員会での意見を踏まえて、今回冊子として仕上がってきたものを見ると全体として良く取りまとめられていると思う。
- 地域産業の創出、活性化を牽引することを訴えていくなれば、化石を中心とした地質関係に特化した産業の創出、活性化ができるのではないかと。
- 地域づくりの方針の概念図に、地域生活拠点となる具体の場所を記載するのは支障があるのだろうか。
- 市街地地域としている東縦貫線よりも西側の白地地域について、今後、用途地域の指定や特定用途制限地域など、何か都市計画的な手法の導入が考えられるのだろうか。
- 立地適正化計画で定める居住誘導区域および都市機能誘導区域について、都市マスタープランに区域や区域設定の考え方などを記載すべきと考える。
- 予定している立地適正化計画の見直し結果を踏まえて、都市マスタープランにも必要なフィードバックを検討してほしい。
- 現状と目標値を定めて進捗状況をチェックしていく仕組みは素晴らしいと思う。
- 今回、結の心とデジタルトランスフォーメーションをしっかりと取り上げている。デジタルトランスフォーメーションは広い面積に暮らす少ない人口を結びつけるための重要な手段。人口減少の課題に対応するためにデジタルトランスフォーメーションが非常に重要であり、大野市の取り組みは他とは違うんだということを、もう少しうまくアピールできないだろうか。
- 指標と数値目標について、数字には表せないところがどのように進捗したかを推し計るために、何か指標と目標を設定して盛り込むことはできないだろうか。
- 中部縦貫自動車道の県内全線開通や北陸新幹線の開業時に、具体的にどれだけの観光客を市に呼び込むために、どのようなまちなかの整備を行うのか、そのような外部環境の変化を捉えた取組が見えてこないように感じる。事業者にとっても市の取組が分かった方が経営に生かすことができる。

- 外部から見た大野のイメージは歴史と自然だと思う。歴史の面で考えると大野には重伝建がない。観光客のまちなか周遊を増やすために重伝建の選定に向けた申請などを考えることはないだろうか。
- 重伝建の選定が全国的な情報発信の手段として活用されている。景観や水循環、生活文化などで大野の良さをアピールすることも大切で、重伝建ありきではないが、戦略の一つとして考えることが大事である。
- デジタルトランスフォーメーションについては、ハードルが高い部分もあると思うが、取り組んでいただきたい。ふく割を活用している市民の年齢層が上がってきていると感じている。高齢者もサポートすることによって活用できるようになるので必要な支援を行うことによってハードルが下がると思う。

3 その他

4 閉会